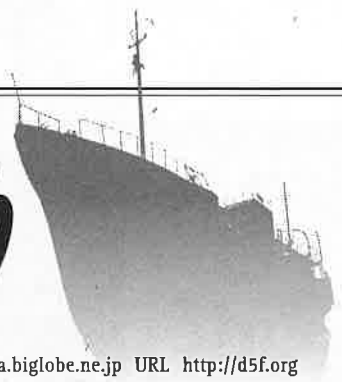


2007.12.01
No.341

福竜丸だより

発行：財団法人 第五福竜丸平和協会 連絡所：東京都江東区夢の島3-2 〒136-0081 第五福竜丸展示館内
Tel.03-3521-8494 Fax.03-3521-2900 E-mail:fukuryumaru@msa.biglobe.ne.jp URL http://d5f.org



大きなマグロやはえ縄のイラストにくりこむように見える生徒たち
ボランティア・ガイドの説明にも熱がこもる



『手紙展』開催中

未来へ伝えるビキニ事件

秋の深まりとともに企画展「手紙―子どもたちが見たビキニ事件」の開催に合わせて来館者や修学旅行、社会科学見学の児童生徒の訪問がますます。

九月から一月に来館した学校は、小学校三七校、中学二・三校、高校一〇校、大学四校、養護学校など二校、一般の団体見学は、歩こう会、歴史探訪会、野草観察会、スケッチ会、老人会、自治体による平和ツアーなど八三団体となり、ボランティア・ガイドや職員が案内をし、説明をしました。

十一月五日には、千葉県幕張メッセで開催されていた放射線影響学会五〇周年記念大会から七〇名余の研究者が来館し、第五福竜丸平和協会から川崎昭一郎会長が挨拶、安田事務局長の案内で熱心に見学しました。

* 海外からもアメリカ、フィリピン、中国から訪問者が

あり、また一〇月下旬にはドイツの雑誌「マール」の取材のためにサンドラ・シュルツ記者とカメラマン、通訳が来館、二日間わたり大石又七さんへのインタビューや展示館と船体のおこない、ビキニ事件の経緯について詳細に質問していました。

新潟で英語教師をしているというアメリカ人のエリック・ナイトさんは、祖父がキヤッスル作戦（福竜丸が被災した一連の核実験シリーズ）に放射線の安全指導者として参加した核開発の科学者（ローレンスリバモア研究所）だったということで、「祖父のことを思いながら展示館にはぜひ来たかった。核実験への深い懺悔と核戦争や実験が廃止されることを願います」とのメッセージを残しました。

* 第五福竜丸展示館は一二月二九日より一月三日まで年末年始休館となります。

第五福竜丸の還暦を祝う俳句を寄せて

田中千恵子

第五福竜丸さん、還暦おめでとございます。

今年は、久保山愛吉さんの遺言碑に寄りそうザクロが見事なつやでたわわな実を沢山つけました。

私たちが久保山忌句会は、毎年すぐれた俳句を書いた作者に「船員証」を贈ります。受取った者は特別乗組員となり、第五福竜丸のあなたと共に愛

と平和の守り手となります。

柘榴は朱に遺言の彫り深くする 望月たけし

今年の望月乗組員は十分な

体力と輝く才能を持つ者です。みっちり使って下さい。それにしてもあなたの六〇年は、時代の大波に翻弄された、数奇な歳月でしたね。

久保山忌句会で披露された福竜丸還暦への祝句

すぐさんのバラ咲き還暦福竜丸
 還暦の福竜丸や涼新た
 船体に触れ還暦という主張
 天高し被爆漁船の舳先叩く
 黄コスモス反核六十歳の声野太
 巡りくる思い新たに久保山忌
 還暦の結び目に秋被爆船
 被曝打電中止英断よ久保山忌
 福竜丸の還暦を祝ぐ群れコスモス
 反核を刻む年輪被爆船
 還暦や真白く一輪彼岸花
 秒針の傷を無数に爽けき船
 秋彼岸生きてる還暦の被曝船
 歪みゆく地球のへその久保山忌



私たちがあなたに初めて会ったのは、あなたの体が日毎夜毎、東京・夢の島のゴミの中に沈んでゆき、そのまま朽ち果てるかと思われた頃でした。

工藤眞智子 佐藤 信
 水落 蘭女 宇治橋 健
 加藤 寿雄 三雲 幸枝
 望月たけし 宇津木丈夫
 井上 幸男 荒井 孚
 星 一子 柄澤なをこ
 樋口 素秋 大菅 清美

澄み渡る空や還暦被爆船
 被爆船となり四海をまたに核廃絶
 還暦を寿ぎし秋空久保山忌
 福竜の鱗の傷み忌の月日
 還暦の福竜丸に木肌の映え
 福竜丸へ祝い花火の曼珠沙華
 目つむれば「すぐさん」の顔曼珠沙華
 曼珠沙華ビキニの船の還暦に
 還暦福竜平和の使者とし秋天盛る
 マラソン少年颯雲曳き久保山忌
 塗ってあげるね乾皮症薬花嫁菜
 定年無き福竜丸よ秋燦々
 祝ぐ涛の九月光らせ福龍丸
 すべてゼロ指し被曝無線機の九月
 還暦の福竜丸や秋彼岸
 船を祝ぐ風の愛吉いわし雲

露木 茂子 花房 凡夫
 中澤 一紅 森 白樹
 荒井 芳子 田中千恵子
 早乙女文子 とみながのりこ
 望月よし江 諸角せつ子
 久世しずか 石川 貞夫
 敷地あきら 鈴木 節子
 鶴澤希伊子 飯田 史朗

た。この出合いは、NHKの「廃船」というドキュメンタリーの一場面に残っています。
 その後私たちは「久保山忌句会」を立ち上げ、毎年九月二三日、久保山愛吉さんの命日にあなたと遺言碑に会いに行き、俳句を書き続けて二七年になります。
 今年は、あなたの還暦を祝って俳句群読を行いました。――鯉船第七事代丸として誕生。鮪漁船に改造されて第五福竜丸となり、ビキニ環礁で被爆。東京水産大学の練習船となつてはやぶさ丸――
 あなたの六〇年を紹介した群読は、参加者の胸に反核の火を灯しました。その時の三〇人のお祝いの句を贈ります。
 来年また、ザクロの色付く頃に会いにまいります。どうぞお元気で。(新俳句人連盟 副会長)

猿橋勝子先生を偲ぶ

第五福竜丸平和協会会長 川崎昭一郎



猿橋さんを見舞う川崎会長

私は学生・大学院時代から原水爆・平和・科学者の社会的責任に関心を持ち活動していた関係で、他の大学・研究機関・団体と交わることが多く、このことで若い頃から広い分野の方々、中堅・指導層の科学者と接する機会に恵まれた。なかんずく、後に第五福竜丸平和協会の初代会長となられる三宅泰雄先生は、海洋の放射能汚染や核兵器禁止問題で創造的、意欲的に仕事をされており、しばしば高円寺の気象研究所を訪ねたが、そのときいつも対応して

下さった方が猿橋勝子先生だった。「死の灰」の分析で優れた能力を持っておられた猿橋さんは三宅さんの信頼が厚く、三宅さんの考えをよく理解されていたので、三宅さんの賛同をいただくにはまず猿橋さんをクリアーすることが必要だった。

日本学術会議のこと、科学者の組織づくり、集会・署名・記者会見等の科学者の諸キャンペーンで広い分野の科学者の協力を仰ぐ中で三宅先生を伺うと、必ず猿橋さんにお目にかかった。大学の方々と違って、猿橋さんは高円寺の気象研究所の研究室にいつもおられ、研究業務だけでなく事務処理の面でもきちっとされていた。

猿橋さんは、その後、地球化学者として新しい研究分野を開発する一方、女性科学者の社会的地位向上のために、誰も手掛けたことのない新しい試みを次々に打ち出された。当時、学者の国会といわれ、有権科学者による公選制がとられていた日本学術会議に女性として初めての会員に選出された。また、自らも相当額の基金を拠出され、「女性科学者に明るい未来をの会」及び猿橋賞を創設された。毎年5月に贈呈される猿橋賞を受賞された方は二〇〇七年に27名に達した。

財団法人第五福竜丸平和協会との関係では、財団設立時より評議員、ついで理事を務められ、専門的見識で協会に貢献された。私が理事になったのも猿橋さんを通しての三宅さんからの依頼によるものであった。三宅さんが亡くなった後、私が会長を務めることになったのも猿橋さんからの強い推薦があったからだ。会長就任後もしばしば、財団の事務所でもあった高円寺の猿橋事務所を訪ね、また度々のお電話でご指導を仰いだ。

緊張の中でも強く、明るさを絶やすことなく生き抜かれた猿橋勝子さん、ご冥福を心よりお祈り申し上げます。

【猿橋さんの談話より】

ビキニの灰の化学分析のことなど

私と第五福竜丸との出会いは、1954年3月のビキニ事件のとき、船上に降った死の灰の化学分析のお手伝いすることになったことからです。死の灰の放射性元素成分については、東大理学部の木村健二郎、南英一両教授以下、化学教室の全員が総力をあげて分析していました。5月下旬に、私は南先生と不破敬一郎助手（その後、東大理学部教授）の突然の訪問をうけ、「あなたが開発した微量拡散分析法で、ビキニ灰の炭酸含量をきめてほしい」という依頼を受けました。10ミリグラムにもみたくない、ごくわずかの死の灰を用いて、その中にくまられる炭酸物質を正確に測定することは、かなりむずかしい仕事でした。南先生は私の腕だめしに、まず炭酸含量が既知の試料を測定させ結果がよくあったので、安心して、初め

てビキニ灰を私に手渡しました。灰の炭酸含量は11・8%でした。灰の本体はサンゴ礁のかけらですが、爆発時の高温で主成分の炭酸カルシウムは分解しその多くは水酸化カルシウムになりました。そのため炭酸含量は約12%にとどまっていると三宅先生は解釈を下し、この結果は京都で開かれた日本分析化学会で発表されました。

ビキニ事件はその後の研究にもつながりました。気象研究所で、カリフォルニア大学のスクリップス海洋研究所で、また女性科学者のための活動など忙しく過ごしてきました。これからも若い人たちにビキニ事件のことを伝えていってくださることを願います。（2006年4月9日談、『第五福竜丸館30年のあゆみ』（06年協会刊）に収録）

ボランティアの会 秋の研修おこなう

第五福竜丸ボランティアの会では秋の研修として、第五福竜丸被災ともゆかりの深い放射線医学総合研究所（千葉県・稲毛市）を見学しました。メンバーの大幡嘉子さんにレポートしてもらいました。

*

秋の気配深まる10月29日。広い敷地の放射線医学総合研究所（放医研）は、1957年ビキニ事件の3年後にできたものだ。私たちは親切な対応を受けた。まずビデオによる重粒子線についての説明。炭素粒子から電子をはぎとってイオン化し、高速度で加速することによって重粒子線となる。この重粒子線が癌組織をピンポイントでやっつける。これまでの放射線治療と異なり、正常な体組織を傷つけることが少ないという。実際に治療や研究に使われている重粒子線治療装置 HI-MAC も見学した。

緊急被ばく医療施設の、廊下には、第五福竜丸乗組員の被ばく位置を示した図をはじめ、JCOの臨界事故のパネルなども展示されていた。JCO事故で被ばくした3名のうち1名はこの放医研で治療を受け全治されたそうだ。

質問し忘れたことがふたつある。外国人被ばく者も同じ扱いが受けられるのか？また敷地内各所にあった「放射



放医研 HI-MAC 装置

能マーク」のついた建物の放射性ゴミはどのように処分されるのだろうか？

ビキニ事件から53年がたち、久保山さんとすでに12名の乗組員が亡くなっている。その苦悩や日本中をゆるがせた放射能パニックにあらためて思いを馳せた。第五福竜丸は核兵器のない世界を目指して航海中だ。展示館は小さいが、地球を守るという観点にたてば大きな存在なのだと思つた。

*

特別展「手紙—子どもたちが見たビキニ事件」関連の学習会として、東京原水協代表理事の柴田桂馬さんを囲んで座談会を開催しました。柴田さんはビキニ事件当時、練馬区で原水爆禁止署名に取り組んでいました。賛助会員で歴史研究者の吉田ふみおさんにも参加してもらい、戦時中から敗戦時の東京のようす、「ビキニ前夜」のストックホルムアピールの取り組みなどを語っていただき、ボランティアの会メンバーからもサンフランシスコ講和条約や日本の再軍備をめぐる「戦後史」についての経験などが語られました。

手紙展の報道

「手紙—子どもたちが見たビキニ事件」はたくさんのメディアに取り上げられました。

朝日新聞（9月22日）、毎日新聞（10月6日）、東京新聞（10月4日）の都内版、朝日小学生新聞（10月10日）、東京新聞コラム「筆洗」、THE JAPAN TIMES（10月31日）や団体機関紙に掲載されたほか、NHK ラジオ「リレーニュース」（10月21日）でも紹介されました。

来館者の感想より

◇第五福竜丸をみてすごく心の中の

ものを感じました。言葉にあらわせません（神奈川・13歳・女性）

◇送られた手紙を読み、みんなが心配してくれているんだと思いました。言葉にはできないような悲しみがたくさんつまっていました。（神奈川・13歳・女性）

◇平和という心がけをしたい。核兵器がなくなればいけないなと思う。（神奈川・13歳・女性）

◇久保山さんの主治医の手記など読み、胸がいっぱいになりました。（東京・40代・女性）

◇久保山さんへの手紙がいっぱいきていて、日本人が皆こんなに核兵器に関心があることがわかり、いいことだと思いました。（奈良・13歳・女性）

◇小学生など幼い子どもからの手紙もあって、小さい子どもにも第五福竜丸を感じるものがあるんだと思つても感心した。（京都・13歳・男性）

◇人間のおろかさが現実として感じられた。若い人にぜひ見てほしい。アメリカの人たちにもぜひ見てほしい。見せるべきだと思います。（千葉・54歳・男性）

新刊紹介

マーシャル諸島ハンドブック

協会専門委員の中原聖乃さん、竹峰誠一郎さんによる『マーシャル諸島ハンドブック 小さな島国の文化・歴史・政治』（凱風社）が出版されました。マーシャル諸島の歴史や核実験被害問題をはじめ、マーシャル訪問のハウツーや注意事項、マーシャル語なども掲載された、充実した一冊です。

展示館内ショップでも頒布しています。（230ページ 2200円＋税）